

10月20日 ゲスト卓話



2016-2017 年度 米山奨学生
娜 荷 芽 (ナヒヤ)様
(世話クラブ 松伏ロータリークラブ)

みなさん、こんにちは。松伏ロータリークラブにお世話になっている、米山奨学生の娜荷芽(ナヒヤ)と申します。まずは、自己紹介から始めたいと思います。出身は中国の内モンゴル自治区です。私の住んでいる町は通遼市です。

今通っている大学での研究テーマは、『内モンゴルにおける仏教信仰の時代的变化』です。分かりやすくお話しますと、21世紀に入ってから(復興された後)、仏教はどのように変化しているかについての研究を進めています。昔は内モンゴルの仏教寺院は、四つの機能を持っていたと考えられています。1930年代の内モンゴルはまだ貧乏だったので、多くの子供が学校通えませんでした。しかし、昔の僧侶はほとんど知識を持っていた人たちだったので、お金のない貧乏な子供を受け入れました。

- ① 文字を教えていました。
- ② 昔の僧侶の中で医術をできる人も多かったので病院の機能がありました。
- ③ 昔は内モンゴルで仏教寺院が多かったため、仏教寺院が当時の人々の集まる場所であり、商売などを行うメインの場所でした。
- ④ 当時の内モンゴルでは、信仰心の高い人が多いのでお布施も多かったそうです。昔の寺院はお金の集中していた場所でもありました。

そして、今私は、復興後の現状はどのように変わったかについて研究しています。事実の記録について、内モンゴルにおける仏教信仰の復興に関する記録は多いとされていますが、多くは当時でも有名だった寺院に関する研究であり、規模が小さかった為記録が少ないです。ですから、規模が小さくても、その事実を記録する価値はあると思っています。

新しい発見について、これまでの研究などでは、中国語、日本語、モンゴル語の三つの言語による研究は少ないとされていますので、私は、この三つの言語を組み合わせ、何か新しい発見ができるのではないかと考えています。

私の研究を進めている二つの寺院の破壊される前の規模ですが、1930年代における僧侶の数が101～120人の間にある仏教寺院は7個ありました。私の研究対象になっている二つの寺院は両方ともこの規模になります。しかし、調査をしたところ、今は一つのお寺は以前より拡大されましたが、もう一つのほうは、以前より縮小しています。これ以外の新しい発見も多数ありますが、時間の関係で、研究内容についてここまでと致します。

内モンゴル自治区の紹介をさせていただきます。呼和浩特市は内モンゴルの中で一番大きな都市です。内モンゴルと言えば遊牧生活をイメージする人は多いと思いますが、今の現状で言うと遊牧生活をしている人々は減少しつつあります。しかし、白いパオに住み、遊牧生活をするのが、内モンゴルの伝統文化だと言えるので、遊牧生活をイメージした観光地が多くあります。もちろん、現代的な都市もあります。

私の故郷は内モンゴルの東南に位置される通遼市です。内モンゴルは西と東によって生活の様子が変わってきます。どちらかというと、西の方は遊牧生活をしている人が多くて、東の方は、半農半牧の生活をしている人が多いです。私は東の方なので、実は白いパオに住んだことがありません。半農半牧生活を送っていたので定住化していました。今は、昔の日本のように、出稼ぎに行く人(要するに、都会行って働く人)が増えつつあるので、田舎の若い人も減少しているのが現状です。

内モンゴル自治区では、肉や乳製品など有名な産物が多数ありますが、今回は、その中の一つである蕎麦について紹介したいと思います。

私の高校はモンゴル語で授業をする形式だったので、学校の学生と先生全員ほぼモンゴル人でした。ですから、教室の中のポスターなどはモンゴル語だけの場合も見られます。内モンゴルは、元々、モンゴルの民族だけが居住していた地域だったので、モンゴル人のための学校が設立されている一方、清朝時代から移民政策を実施された原因で漢民族も増えています。現在はモンゴル人の何倍にもなっているため、当然ながら、中国語だけで授業を行う学校もあります。基本は、モンゴル民族はモンゴルの学校へ、漢族は中国語の学校へ通いますが、例外も考えられます。

私の通った大学は、内モンゴルの大学だったので、モンゴル語で授業をする学科もありました。しかし、モンゴル語と関係ない学科は全部中国語で授業をするようになっていました。私も当時モンゴル人のクラスだった

のですが、中国語で日本語を勉強しました。これは、ますます中国語が重要視されていると言えます。

授業は、モンゴルの文化など専攻以外の授業は中国語で行われますが、卒業式などでは、モンゴル族の学生は民族衣装を着て祝ったりします。

モンゴルでは、主にアルバイトと学校、僅かな趣味をするような多様性のない生活を送っていたため、日本の文化などに触れる機会はありませんでした。日本人の友達も作ることができませんでした。そして、当時は一人暮らしでしたし、家族も離れているので寂しく感じていました。もちろん、忙しい時は寂しさをあまり感じないが、休みの日はちょっと辛かったです。

しかし、米山奨学生になってから変わりました。いろいろできるようになりました。お金だけの援助をして頂いたのではなく、精神的な援助もたくさんいただきました。そして、異文化体験が大好きな私はいろいろな日本の祭りに誘われました。これは、米山奨学生にならなかつたら、中々できない経験だと思います。松伏ロータリークラブの何人かのご好意により浴衣をプレゼントして頂きました。本当に感謝しています。米山奨学生になる前も浴衣を着る事は考えていましたが、時間とお金の余裕が無かったのでできませんでした。

松伏ロータリークラブの皆様のお陰で旅行もできました。そして、友達もできました。みなさんは、本当のお爺さんお婆さんのように親切です。精神的にも寂しく感じなくなりました。

今、松伏ロータリークラブの大塚さんのご提案により、金杉小学校でボランティアをしています。これは一つの恩返しの機会だと思い、できれば続けていきたいと思っています。

敬老の日の9月 19 日に行われた奉仕活動には、日本に来て初めて自分の民族衣装を着ることができましたので嬉しかったです。多くの仲間と交流でき、日本の老人ホームを初めて見て、素晴らしいと感じました。

富士登山の経験により、仲間が増えました。実は、米山奨学生として選ばれてから、他の奨学生やロータリーアンの方々との間で話す機会も少なかつたし、関係はまだ深まっていませんでした。しかし、富士登山をきっかけで、皆さんとよく話すようになりました。だから、今回の富士登山で本当に多くの仲間ができました。

内モンゴルの伝統文化はますます重要視されなくなってきたのが現状です。日本に来てから日本の銀座や東京など有名な場所にも、日本の方は着物を着て歩く姿がよく見られます。それを見て、内モンゴルでは、日常生活でそんなに着たりしないと思いました。日本は、このように発展しているのに、自分の伝統文化を大事にしていると思いました。だから、日本

に留学して、日本の現状(良いところ)を内モンゴルの人々に伝えたいです。日本と自分の故郷の間に架け橋になればと思います。